

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901431		
法人名	有限会社 ポプラ		
事業所名	グループホーム あじさい		
所在地	旭川市春光4条9丁目6-12		
自己評価作成日	H 26 年1月 30日	評価結果市町村受理日	平成26年3月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・地域に愛されるホームを目指しています。 ・入居者様が健康で楽しく暮らす事ができるように支援しています。 ・職員は入居者様の思いや伝えたい事を深く理解するように努め、実践しているためホーム全体が穏かに過ごせている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=tue&JigyosyoCd=0172901431-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 26 年 2 月 26 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>このホームの優れている点を挙げてみました。まず第一に家族とのコミュニケーションの良さが挙げられます。「家族会」も年2回の開催ですが会議の内容の充実、参加者の多さに家族の関心の高さが覗えます。第二に町内会との親密なお付き合いです。お互いの行事にはそれぞれが手伝い、認知症に関わるコーナー(キャラバンメイト)も設置しながら、地域に深く理解を求めるなど地道な活動も特記に値します。第三に職員の異動を極力避けて利用者や職員の好ましい馴染みと信頼関係作りを行っている点です。第四には利用者のしっかりとした完食を目指す献立作りです。色合い、味などにこだわりが覗えます。第五として居間に設えられた椅子が上げられます。腰が沈むソファを避けて若干硬さはありますが、利用者の体形を考慮した特注の椅子が並べられ、管理者の深い経験とこだわり(ポリシー)を垣間見ることが出来ます。地域の福祉を牽引するパイオニアとして今後も楽しいホームと思慮します。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設創設時より理念に基づき、見易いところに掲示し、管理者の指導の基に共有し日常の業務に活かせるように意識して業務している。	職員の全てが、地域密着型サービスの意義を十分に理解しながら、利用者の暮らしを守るため理念の実践に邁進しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りへの参加、協力や近所の商店やスーパーにおいて日常の食材の購入をし、又町内会の役員などをして地域の方々と交流している	町内会事業への積極的な参加協力、また、地域の方々がホーム事業である夏祭りなどに協力してくれるなど、相互の理解が深まりを見せています。町内会の祭りにはキャラバンメイトのためのコーナーを設置してくれます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々を事業所の行事にお誘いし、参加して頂き利用者様と触れあって頂き、理解を深めて頂いたり町内の行事に職員と共に参加して理解を深めていただけるように努力している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議開催の折に事業所内の出来事や、利用者様の状態等を報告し、結果などに付いて意見を頂いたり経験談をお聞きし、拝聴した事項などを参考にサービス向上に活かしている	会議には市の担当職員、町内会長、民生児童委員、障害者生活支援センター職員及び家族などが出席し、諸報告に加えて時期に適した話題などを提供して活発な会議となっています。今後はより多くの家族の出席の要請について検討の予定です。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは、機会あるごとに連絡を取ったり、訪問したりして指導を頂きよい関係を保ち協力しあえる関係を築いている。	運営推進会議には市の担当職員が必ず出席してホームの状況を知ってくださり指導を頂いています。外部評価の結果なども話し合われていますが、「目標達成計画」の内容についても今後は説明をしながら連携を図ることとしています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々のケア実践の中で拘束の3条件に当たるかを意識し、職員同士で話し合いながらケアに当たると共に実践に取り組んでいます。昼間は玄関の施錠もすることなくケアしている。	身体拘束防止関連の研修会に出席の職員から、内容の説明があり共有が図られています。また、国・道の規則の範囲内で身体拘束のある場合は家族への連絡と同意を得ることとしています。職員間では身体拘束のないケアの確認を行い、特に言葉による拘束行為に関してもチェックして身体拘束のないケアに努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	機会あるごとに職員は研修会や勉強会に参加し、自分たちのケアなどが虐待に当たるかなどを検討しあいながら防止に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修などに参加し学んでいる。ご家族からの要望がある時や必要な利用者には説明し活用できるように努力し支援している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	案内書や利用契約書はわかり易く記載され、利用者様との契約時や質問などに管理者は説明し理解と納得を得ている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様・ご家族からの要望や意見などは常時受け付け、面会時に話合える雰囲気作りや声掛けを行い意見を反映させられるようにし、又「家族会」開催時に意見交換ができるように配慮し運営に反映させている。	家族の訪問頻度は高く、訪問時には利用者の近況、体調説明など、また、意見や要望なども聞く大切な場としています。年2回の「家族会」はクリスマスなどのイベントにあわせて行われていますが、会議内容は利用者、ホームの現況に止まらず、問題の提示など内容の濃い会議となっています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送り、月1回の全体会議などに意見を出せるように配慮し、意見を聞き全体で討議し日々の業務に反映させている。	毎朝の申し送り、業務日誌の記入、更には毎月1回開催される1～2階のユニット合同の全体会議により、情報の共有ばかりでなく、職員間の意見交換の良き場となっています。管理者は忌憚のない意見交換の雰囲気作りをしながら、ホームの運営に反映するよう努めています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員の勤務状況、勤務実績などを把握し、個人の能力や向上心を保てるように配慮している。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員の向上心を後押しして内外の研修参加を勧めている。又、個人的に技術指導を行っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は同業者と勉強会グループを作り、同業者連合主催の勉強会やネットワーク作りを行い積極的に参加しサービス向上に努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望時はもちろん面接時などでご家族やご本人と面談しご本人の困っている事、心配事、不安等をお聞きしている。その際生活環境や生活歴なども話し合う中でお聞きし不安等の解消に役立て、不安の解消に努め信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望時などに施設見学やご家族の困っている事や要望などをお聞きする場を設け、不安な事や知りたい事などを尋ね、話し合う事で信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居決定の段階で、管理者、計画作成担当者、介護リーダーがご本人、ご家族と話し合い、一番困っている事、どのようなサービスが必要か見極め、必要なサービスを提供するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、各個人の出きる事、出来ない事を見極め、職員間で話し合い、各個人に合った作業を共に行ったり、お願いしたりして共に暮らすと言う関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会は自由であり、面会の際は自室でゆっくり過ごせるようお茶などを提供して配慮している。日頃の様子を伝えたり、ご家族からのお尋ねに応えたりしている。またお便りなどを発行し日頃の様子を感じていただきご家族と共に一緒に支えていく関係の構築に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の親戚、友人などの郵便物、電話などの橋渡しをし関係が途切れないように配慮している。会話の中から昔の友人、知人、馴染みの場所などを推察される写真や雑誌などを提供したり、思い出話を聞いたりして支援している。	本人の生活歴などの把握により、馴染みの人たちや場との関係継続を支援しています。家族の協力でも外泊や墓参りも支援していますが、出来ない場合でも馴染みの人たち、集いなど写真により、あたたかみのある場にいるような雰囲気になれるよう話し掛け思い出を引き出すよう努め効果を挙げています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各々の利用者様の個性を把握し利用者様同士係わり合い、相性などを把握し、食事の席、ゲームのチーム分けなどに配慮している。又体操やレクレーション、唄の時間など一同に集え関わりあいがもてるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も入院中などの方へのお見舞い日常生活支援、ご家族の希望により外部他機関への紹介、相談に乗っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人・ご家族から思いや意向を聞きとり意に添えるように配慮している。ご本人が表現出来ない時などは、アセスメントツールを利用したり、日常生活の会話の中からご本人の思いを探りながら支援している。	利用者がその場で一番してみたい事柄や希望を会話の中から掘り起こしながら、思いや意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の係わりの中から情報を収集し、職員間で情報を共有し各々個人の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の係わりの中で、各個人を身体状態の把握、何が出来て何が出来ないか等を観察把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人に係わる人達からの要望や職員間から課題やケアのあり方などの意見を出し合い計画を立てている。定期的な計画の見直し、状態の変化時、問題の発生時は、モニタリング、アセスメントを行っている。	日々の暮らしが記録されるケース記録には、それぞれのケアプランに添った日常のモニタリングによる記録が記載され、3カ月をスパンとするプランの見直しに反映されています。今後は家族への説明に加え話し合いも十分に行うこととしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各個人のケース記録に日々の様子を記録し、随時対応の良し悪しなどを記載し情報を共有し計画の見直しに役立て、日々のケアに反映できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態、変化に伴い、ご本人の希望をかなえてあげられるように既存のサービスにとらわれず柔軟な支援やサービスが出せるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人や家族からの要望に応え、快適な生活を送れる様に地域住民との交流に心掛けたり、消防訓練などには町内の方々も見学や参加していただいている。地域の理美容も利用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後の受診は、各個人の掛かりつけ医を継続し、新規受診の必要時にはご家族と相談し確認と了解を得て医療連携の病院なり各必要時の病院を受診している。	従来のかかりつけ医への受診は、本人や家族の希望を尊重しながら継続できるよう支援しています。また、医療連携体制の確保により、ホームとの連携医療機関との密接な関係維持に努めて、あらゆる相談を行える体制を整えています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設には看護師はおりません。医療連携、各個人の掛かり付け病院の看護師と連携を取り変化時には相談し、アドバイスを頂いたり、必要時には主治医と連絡を取って頂き対応している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、各個人の病歴、症状などの情報提供をし、経過を追って主治医や医療関係者、ご家族等と相談連携を取って早期回復、早期退院に向け努力している。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	各々の状態に合わせてご本人、ご家族、主治医、施設側との話あいをもち、施設側で対応出来ること対応出来ないことを説明、方針を決めて職員へと伝え、支援体制を整えて支援しています。	重度化や終末期に向けたホームの指針が入居時に説明され家族等の同意を得ています。また、ターミナルケアの必要な時点では家族、医師、管理者を交えた話し合いが繰り返し行われ、ホームとしてのターミナルケア体制の整備が行われています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備え、各個人の病歴や連絡先などを個人ファイルに添付対応出来るようにしている。救急救命の講習会などに参加し学んでいる。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は、昼、夜と別々に想定し行っている。訓練時は町内の方々にも参加して頂き協力を得られるようにしている。職員は消火器、火報知器などの場所の把握、避難場所などの確認を行っている。	職員の少ない夜間を想定した避難訓練など年2回の実施が行われて、近隣の住民の協力も得ています。冬季間では、非常階段付近の除雪作業は職員の多くが苦勞をして行っています。非常時における備蓄の準備は十分とは言えず検討が必要です。	非常時に向けた水や懐中電燈の準備が進められていますが、火災ばかりでなく地震、水害などあらゆる災害を想定した緊急備蓄の必要性が検討されるべきと思慮します。停電時の対応など臨場を想定した備蓄の検討と取り組みを期待します。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室は個室になっておりプライバシーは保たれている。職員は各個人の人格を尊重し尊厳を持って対応している。	昼食時における利用者と職員の会話や寄り添いの光景で、利用者の人格尊重やプライバシーを損ねない対応を見ることが出来ます。特に入浴、トイレへのさりげない誘導の対応に十分配慮しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様とコミュニケーションを取るよう働きかけ、言葉では現せないことや言いあらわせないような事は日頃の言動や体動から察し、希望や表出を導き出せるよう働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間等は体調に合わせて時間をずらして食べていただいたり、レクリエーションや軽作業などは無理強いしないようにその人のペースや希望に沿って行っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪は訪問理美容師に来院して頂きカットなどして頂いたり、季節にあった服装の相談に載ったり、コーデネートの相談に載ったりアドバイスをしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のおかずを使用する野菜の下拵えを共に行い、もやしの目取り、ジャガイモの皮むき、ピーナツの皮むき等食材についての会話をしながら行っている。各々の誕生日には、希望を聞き希望に沿ってメニューを決めてお出しして喜んでいただいている。	利用者に喜んで食べてもらうよう献立は管理者などが知恵を絞って作られ、彩りや味加減の良い食事が1～2階一緒に調理され提供されています。一部の利用者に食事介助が行われていますが、ゆっくりとした時間での完食される様子を覗う事ができます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各々の水分量、食事量、持病（糖尿病など）等に配慮し量の増減など調整してお出しするようにしている。又1日の摂取量を記録し、体調管理に配慮している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後各個人に合った口腔ケアを職員が付き添い、出来ない部分を介助しながら支援している。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各個人の言動や体動などから排泄パターンを把握し夜間オムツを使用している方々も日中はトイレでの排泄をこころがけている。誘導はプライバシーに配慮し声掛けに工夫をしながら行っている。	出来るだけオムツ依存を避けたいとの管理者などの意向により、リハビリパンツの使用や小まめなパット交換など、また、トイレでの自力排泄と誘導が継続して行われています。耳元でのそれとない声かけが印象的でした。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄状況を記録し各個人の状況を知りそれぞれの便秘の原因などを探り、離床時間を長くする工夫をしたり、軽い体操などを勧めている。食事の面では食物繊維の多い食材を使用したりおやつに出したり、乳製品を摂取できるように配慮している。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一応、週2回、午前。午後の入浴日となっているが、個人の体調に合わせて曜日を変更したり随時対応している。	体調や希望を尊重しながら、週二回の入浴をお勧めして支援が行われています。座位式の全身シャワーもありますが利用度は少なく、職員の介助により浴槽でのゆったりとした入浴を楽しまれているようです。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各個人の希望の寝具を使用し、冬季期間は湯たんぽなど暖房器具の希望があれば対応している。個人個人の生活習慣を尊重し日中は過ごしていただくようにし安眠に繋がるように支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の病気、使用している薬を職員は把握しており各個人のケース記録に薬の説明書を添付し内服までに3度、目が通るような体制を取っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各個人の趣味や興味を把握し、得意な事はお願いしたり、皆さんでゲームや唄などを歌ったりして楽しみ、天気の良い日は、散歩などをして気分転換を図っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	各個人の希望に沿って日光浴や散歩などを楽しんでいる。ご家族の協力のもと外出・外泊等も希望に沿って行われている。	好天時には、出来るだけ外気浴を兼ねての散歩が行われています。車椅子での散歩、往きだけは自力歩行で帰りは車椅子を使用するなど、利用者の状況を踏まえて適切な支援が行われています。花見、紅葉狩り、ホーム庭での花火大会、自家製ぶどう棚でのぶどう収穫も楽しみの一つとなっています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の出きる方々にはご家族との話しあいにより、イベントや受診時に希望の品を買えるように支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からご家族や親戚などへの電話使用の希望があれば仲介をし電話を取り次ぎ、話しやすいように個室で子機にて話して頂く様に配慮している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には利用者様の製作物を展示したり邪魔にならない場所に季節の花を飾ったりして、安心出来る空間作りに努力している。	外の雪景色とは裏腹に、暖かな温度調整が出来た居間などの共用空間では、家庭的な雰囲気の中利用者さんののんびりとした安心の暮らしが展開されています。利用者さん手作りの作品、笑顔溢れる写真などが壁を飾っています。利用者の寛ぐ場所としてソファではなく医療用の特注椅子が壁に沿って並べられ、腰への負担を出来るだけ軽減しようとする管理者のポリシーを見ることが出来ます。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにおいてあるイスやテーブル等の配置は、安心して過ごせるように配置している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご家族やご本人と相談して馴染みの物や使い慣れた物を配置し安心して過ごせるように工夫している。	持ち込まれたベッドの配置は家族の希望も取り入れられ、個人差こそあれ持ち込まれた家具調度品と共に賑やかに配置されています。ベッド使用ではなく床での布団寝も多いなど本人本位の安心した暮らしを垣間見ることが出来ます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個室にて生活されており、個人個人の出来ること出来ない事の把握をして少しでも自立に繋がり、かつ安全に過ごせるように工夫しながら支援している。			